

【学校教育目標】「感謝の心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」

第 12 号

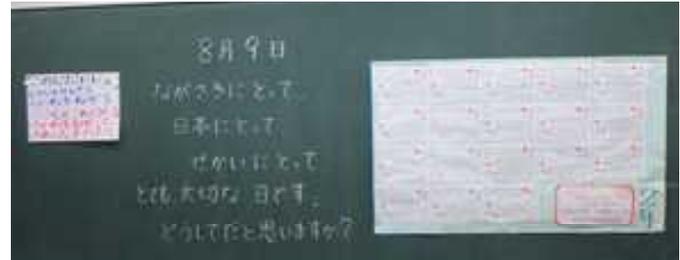
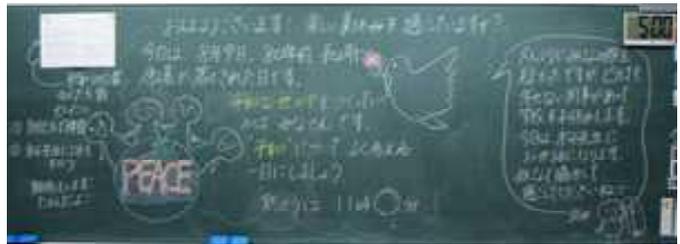


学校だより 堂崎つ子

令和 7 年 8 月 21 日
南島原市立堂崎小学校
校長 末吉 優

8月9日より降り続いた雨で、田畑も潤いを取り戻しました。一方で、10日から11日にかけての大雨には驚きました。保護者の皆さん、被害等はなかったでしょうか？

さて、8月9日は「長崎原爆祈念の日」で土曜日でしたが、県内の学校では、登校日でした。各学校では平和集会を行い、原爆犠牲者への哀悼の意を捧げました。平和集会や各学級でのこれまでの取り組みを通して、戦争や争いのない平和な世界をつくるために、自分たちにできることを考えてきました。 【教室掲示等の一部】



8月9日（土）「平和集会」 校長講話より

80年前の1945年8月9日に、長崎市に原子爆弾が投下された。その結果、一度に約7万4千人の人が亡くなり、さらに多くの人々が放射能や火傷などで苦しんだ。その後も、原爆症という病気で亡くなった人は数え切れない。

6月には、4年生と5年生で、原爆資料館・爆心地公園・平和公園を見学し、平和への思いを確認した。その思いを今日、4年生が発表した。残念ながら、今の6年生は原爆資料館・爆心地公園・平和公園を訪れていない。しかしながら、この夏休みを利用して家族で見学に行ったり、これから訪れる予定だったりする家族もいる。とてもありがたいことである。

全校の皆さんは、「この時代に」を歌い、たてわり班で折り鶴を折り、各学級でDVDを見るなどの様々な活動を通して、平和って何だろうと考えてきた。

世界には、戦争や争いごとが続いている。それらは、相手の気持ちを十分考えない自分中心の考え方、ルールを守らない身勝手な行動によるものである。私たちの日常生活・学校生活に「相手の気持ちを考えない自分中心の考え方、ルールを守らない身勝手な行動」はないだろうか。注意を受けると、残念なことに「自分は悪くない、相手が〇〇なことをした、言った。」などの言い訳



をするようなことをたびたび、見聞きした。平和な世界を願うのであれば、いじわるや悪口、相手の気持ちを傷つける言葉遣いをなくし、友達と仲良くすること、違う意見や考え方をもち人を尊重すること、困っている人や弱い立場の人を助けること、自分の感情や思いを素直に伝えることが大切である。私たちは一人一人が平和をつくる人である。

今日は、原爆投下から80年目の8月9日である。この日を忘れずに記憶していきましょう。そして、先ほど述べた「いじわるや悪口、相手の気持ちを傷つける言葉遣いをなくし、友達と仲良くすること」を、ただ言葉で言うだけでなく、行動に移し、「平和」のおおもとになる「私たちの心のねっこ」を育てていきましょう。

【4年生の発表】



一学期終業式 【2年生発表から】

一学期終業式では、2年生が一学期に頑張ったこと、その結果できるようになったことを、一人一人が堂々と発表しました。生活面での達成について、あるいは、学習面でのこと、そして、友達との関わりのことなどでした。

努力を重ねた結果、自信をもって発表できるのだと感じました。最後の締めくくりは、「やればできる」という力強いかけ声でした。



続けることの大切さについて（継続は力なり!）

一学期終業式講話の中で、毎日続けてほしいことについて話しました。大きく二つの内容でした。夏休みの宿題は数多くあると思いますが、①教科書の音読、②算数の教科書のまる写しについて紹介しました。一日5分だけ、合わせて10分の取組です。とても簡単なことではありますが、「続ける」ということにチャレンジしてもらいたいという内容でした。一日10分、40日間で400分（6時間以上の学習時間）。努力することの大切さを実感してもらいたいことと、継続できた自分を見つめることで、大きな自信になると考えているからです。

子供たちが、自らの課題に立ち向かい、いかに自分から学習するかが大切であることは御承知のことと思いますが、そのおおもとにあるのは、読む・書く・基本的な計算であることは言うまでもありません。それらの土台は、日々の積み重ねでありますし、根気強く、ていねいに取り組む姿勢だと考えます。そういった中で、思考力や判断力も培われます。

日々の学習への取組を見つめ直し、今自分にできることは何か考え、地道に取り組んでいくことで自分たちの可能性を広げてほしいと考えます。私たち大人は子供たちの応援者です。保護者の皆様により、子供たちの背中を押してあげることが何より大切です。さあ、これまでに培った財産を活用し、地道に努力していくことで、新たに時計の針が動き始めることでしょう。